



平成 21 年 5 月 13 日

各 位

会 社 名 メディアエクスチェンジ株式会社
代表者名 代表取締役社長 徳田 成美
(コード番号 3746 東証マザーズ)
問合せ先 取締役最高財務責任者 小林 保
(TEL. 03-4306-6543)

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 21 年 3 月期において下記のとおり特別損失を計上することとなりましたのでお知らせいたします。併せて、平成 20 年 11 月 7 日に公表いたしました平成 21 年 3 月期(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)の連結業績予想を、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

(1) 減損損失の計上

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づきまして、資産のグルーピング、営業活動から生じるキャッシュフロー、及び資産の健全性と経済的残存耐用年数等を総合的に検討し、当社が保有する固定資産について減損処理を行い、当期において、連結ベース及び単体ベースで 2,208 百万円の減損損失を特別損失に計上するものであります。

(2) 有価証券評価損の計上

平成 21 年 3 月期末における保有有価証券の評価を行ない、当期において、連結ベースで 51 百万円、単体ベースで 573 百万円を特別損失に計上するものであります。

平成 21 年 3 月期通期における有価証券評価損

	単体	連結
(A)平成 21 年 3 月期(平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)の有価証券評価損の総額(=イ+ロ)	573 百万円	51 百万円
(イ)平成 21 年 3 月期 第 4 四半期会計期間(平成 21 年 1 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)の有価証券評価損の総額	568 百万円	36 百万円
(ロ)直前四半期(平成 21 年 3 月期第 3 四半期) 累計期間 (平成 20 年 4 月 1 日から平成 20 年 12 月 31 日まで) の有価証券評価損の総額	4 百万円	15 百万円

※当社の決算期末は、3 月 31 日です。

(3) その他の計上

- ①当期において、事業原価の低減及び徹底的なコスト削減等を図ることを目的に、賃借スペースの一部返還を決定したことにより原状回復費及び賃借料等の関連損失の引き当てを連結ベース及び単体ベースで 368 百万円を特別損失に計上するものであります。
- ②「連結財務諸表における資本連結手続きに関する実務指針」に基づきまして、のれんを計上する対象株式を減損したことにより、のれん 455 百万円を一時償却として連結ベースで特別損失に計上するものであります。

2. 平成 21 年 3 月期連結業績予想の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	3,831	△506	△503	△505
今回修正予想 (B)	3,853	△488	△500	△3,556
増減額 (B-A)	22	18	3	△3,051
増減率 (%)	0.5	3.4	0.4	—
(ご参考) 平成 20 年 3 月期	2,376	△327	△257	△335

(参考) 1 株当たり予想当期純損失 △37,454 円 54 銭

(注) 平成 20 年 3 月期は第 4 四半期から連結業績となっております。

3. 修正理由

売上高、営業利益及び経常利益につきましては概ね計画通り推移したものの、前記 1 の特別損失を計上したことにより上記のとおり業績予想を修正いたします。なお、当社連結子会社である株式会社ギガプライズは、HomeIT 事業において不動産市況の低迷による新規マンションへのインターネットアクセスシステム導入工事の減少及び貸倒引当金を計上し、システム開発事業において外注費比率が増加したことにより、本日付で単体業績予想を修正しております。

(業績予想の利用に関する注意事項)

上記に記載した予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上